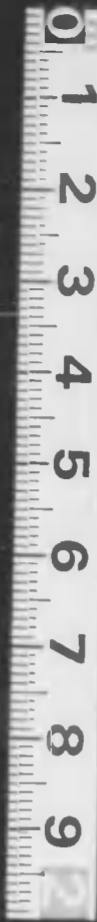


週寫
報眞

情 報 局 編 輯
九 月 卅 日 · 第 二 百 四 十 號 · 七 十 年



われ等は

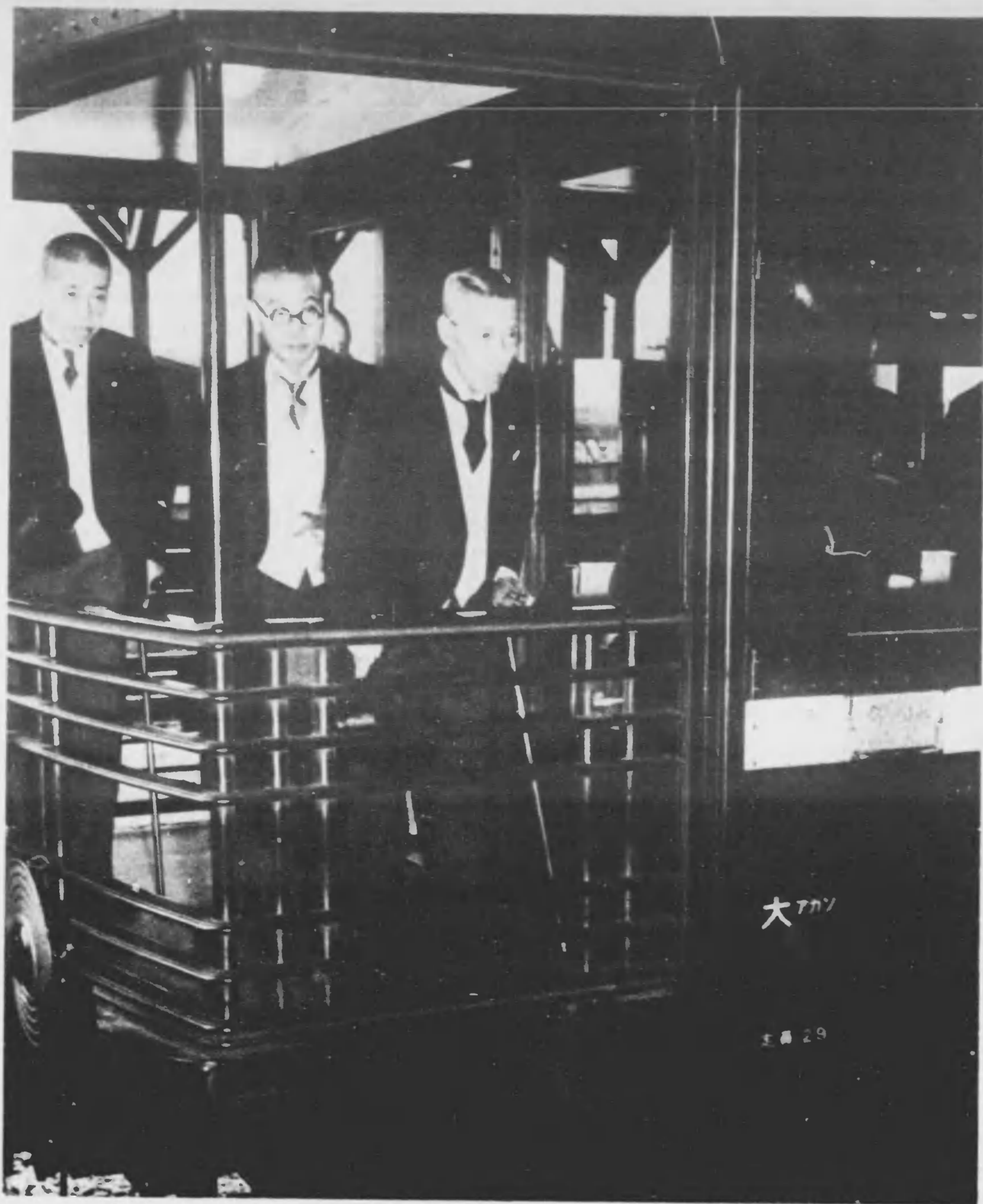
英靈に額づき、遺族を援けたであらうか

傷疾軍人を勞はり、出征家族を助けたであらうか

今われ等に過ぎてもなほ及ばぬもの

軍人援護の心と行爲

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



へ國中新

節使訪答 途首のれ晴

さきには汪主席、近くは
褚特派大使の來訪等國民政
府の示した數々の誠意に答
へるとともに、大戦下日華
兩國の提携を一段と強化す
るため國書を擧げて中華民
國に特派される平沼、有田、
永井の三特派大使は、隨員
十八名を随へて九月十七日
午前九時東京驛發「つば
め」で晴れの首途につま
ました。

鹿島立つ三特派大使（右
から平沼、有田、永井の三
大使）

軍人援護強化運動

十月三日—八日

再起を夢みて 傷も忘れた昨日今日

千葉縣傷痍軍人下總療養所

十月三日から軍人援護強化運動が全国で行われますが、私たちのまはりには傷痍の勇士や、靖國の神とされた勇士の遺族や遠く戦地に夫や兄を送られた家族の方たちが澤山おいでになります。私たちが今日、これほどの大戦争をしなければいかぬやすらかに容れるのは何よりもまづかうした忠勇無双の勇士が盡忠報國のお働きを下されたからで、すなわち私たちが戦後の國民はこれら傷痍軍人、軍人の遺族、家族に對して深い感謝を捧げるとともに、かうした方たちが日本の國民として奉公の誠が盡せるやうに私たちは出来るだけ心の支度協力をいたしませう。

畏くも 天皇陛下には軍人援護に關する優渥なる勅語を下し賜ひ、その中に「朕が忠貞ナル臣民は、在リテ相率キ公ニ奉シ出征ノ將兵ヲシテ後顧ノ憂ナカラシム朕深ク之レヲ嘉尚ス」と仰せられておます。また 皇后陛下には

との有難き御歌を御下し遊ばされておます。政府は勿論軍人援護に關しては萬全の施設をほどこしておますが、勅語に仰せ出だされてある通り、私たちは傷痍軍人、軍人の遺族家族に對して深い感謝を捧げるとともに、益々隣保相扶けあつて遺族の方や出征家族の皆さん心の隣組となつてお力添へをし、傷痍の勇士にはその手足ともなつて勇気づけ、億一心、みんな一緒に火の玉となつて戦争完遂に邁進しようではありませんか。

千葉縣傷痍軍人下總療養所には頭部に戦傷を受けたお氣の毒な勇士たちが再起奉公の熱意に燃えてひたすら療養に専心してをられます。

ほかの戦傷と違つて頭部戦傷の人たちは除役や召集解除になつても精神的、肉體的障害が残り、頭痛、眩暈や又は傷害の如何によつて手足が麻痺し、視力を減じ、言葉が不自由なつたりして日常生活を営む上にもいろいろの御苦勞があるわけですが、療養所では世界的に完備した脳外科手術の設備がありますし、



レントゲン機で頭蓋内に残つた弾片をさがす



運動中傷を受けた勇士の脚能と通性の検査

軍醫さんと看護婦さんもお話して一日も早く回復されるやう努力されておますが、かうした勇士が退院されたらこんどは私たちが看護婦さんになつて、温い心でなにかとお世話しようにではありませんか。

撮影 軍事保護院



秋陽を浴びて寝顔
鮮さんと退院のト
マトを探る。もう
退院も間近だらう

将来この方面に再
起する勇士のため
に機械工業の實
行も行はれる。こ
れも作業療法の一
つだ

作業療法の一つと
してワイロンか
け、履足の洗濯し
たシャツが次々と
仕上がる





婦人科 手術室におナベリヤフランクに運び取れた子供たちは、授業を終って帰ってきたお母さんの腕へ抱かれながら飛び込んでゆく

婦人科 手術室におナベリヤフランクに運び取れた子供たちは、授業を終って帰ってきたお母さんの腕へ抱かれながら飛び込んでゆく

婦人科 手術室におナベリヤフランクに運び取れた子供たちは、授業を終って帰ってきたお母さんの腕へ抱かれながら飛び込んでゆく



夫の遺志を胸に 明日への希望を

母子寮 アパートのそばに、部屋毎に設けられておて、放課後は英語を中心とする子どもたちの生活がいとまられる 軍人遺族東京職業補導所

かよわい女の身に鞭打つて生活戦線に苦闘する軍人の未亡人たちに、將來の不安もなく一本立ちの生活ができるやうしつかりした生計の途を與へてやることは、最も大切な軍人遺族の一つでなければなりません

東京補導の西大久保にある風俗財團軍人補導所の「遺族職業補導所」は、かうした難問から政府の援助によつて設けられたもので、これまでもある生花や手藝などに重點を置いた短期間のものから一歩を進り、音楽、看護、

た遺族たちの健やかな姿を見て君國に殉じた英霊もさだめし地下にあつて喜んでゐることです

補導所「財を開いたなら何といふ名前をつけやうかしら」そんな楽しい生活の設計が、と頭をかすめるときもある



補導所 大いこねて特別に教室へ入れてもらったのであらう。お母さんと机を並べておとなしく先生の話をきいてゐる子供がある



補導所 産湯の使はせ方も教へた。今日は産後した産婦から大膽下に力強く高い産後が聞えてくる



補導所 懇切な指導と熱心な研究環境、まもなく一人前の婦人科医士が誕生する

愛知第一国民学校 八幡町 兵隊さん有難う



八幡第一国民学校



出征家族の下村さんを訪ねた慰問隊のスケッチ班代表高橋科二年生野部力君外二名は、照りつける暑さの中で贈呈を運んでます。戦地の下村さんが受取つたことと喜んでお祝いしてやう

愛知縣知事八幡町第一国民学校の西山校長先生は、いま配達されたばかりの軍事郵便を握ると、お食事中の箸を投げ捨てて、お食事に、職員室に備へ付けたマイクの前に駆け寄りました。そしてここから全校児童に通じる放送のスイッチを入れ、食事中の全校児童に先月竹さんが出した慰問文のご返事が、たゞいま書きましたから、これから頑ま上げますと前置きして前略、支那の少年少女は氣の毒なものです。日本軍の



けふは故郷中尉さんの命日です。竹んなの丹誠で作った野菜を精進料理を作り、代表高橋科一年生平松久枝さん外二名は竹内先生と一緒に飾りしました



前略の兵隊さんからきたおはがきを讀み上げる西山校長先生

入城となれば嫌しさうに集つて先生々々といつてきますので、食物等を與へてやりませう。學校にも通へず野良犬のやうに買ひ食ひする敗戦國の悲惨な有様の子供だけに立派に考へさせられませう。諸君、戦争にはどうしても勝たなければなりません。そのためには國民があくまで力を協せて働き、諸君も仲よく勉強して益、體を大切にしてお國のためにつくして下さい。中支第一線の兵より、をほり校長先生の手紙朗讀は、これで終りましたが、先生はすぐ全児童に起立を命じて一緒に同校の誓の詞を朗讀しました

「私共は一舉一動一呼一吸の悉くを、天皇陛下の御爲に致します」
「愛知縣知事多半島の一角から、かくも元氣に満ちた朗讀の聲が戦地の兵隊さんに聞えたら、どんなに兵隊さんは喜ぶことぞう。そしてまた、この子供たちが「兵隊さん、有難う」とけなげにも軍人投函につくす純真な氣持や数々の行ひを知つたら、いや戦地の兵隊さんばかりでなく、銃後にあるわれわれにとつても大代を擔ふ少國民のこの心意氣こそ、何にもまさる頼りしさを覺えます」

カンナ、萩など児童手作りの草花が校庭に咲いてゐます。供花園と呼ばれ、子供たちはこの花を切つて慰問に供へます



呉市竹内先生は、兵隊さんから来た手紙が年月別にキチンと整理され、打屋の時には支那事変はじまつてからの日誌が克明に書かれてゐます。一歩この部屋に入れば、其國の白ひき涙が、其國に唯残る少年の懐れが、つづつと



苦難の峠を越えて

西田 進勇

★傷つき 産る★

遠くで誰か呼んでゐる。近くでまた呼ぶ音がする。私は夢の様な聲のする方ばかり目を開けて見た。そこには軍醫殿と衛生兵が立つてをられた。

「気がついたか、もう大丈夫だぞ」

軍醫殿の聲であつた。何が大丈夫なんだらう。右を向うとした「アッ痛ッ」

呻きを上げた。首から右手、左手、身中中綱帯につままれてゐるのをはじめて意識した。さうだ、おれは負傷したのだ。私は戦友達の手によつて福留所に收容されてゐるのであつた。

入院生活十一ヶ月。入院中の手厚き看護については到底表現することもできない。私は何をしたらのだらう。それだのこの厚遇。私ははた愧ぢる。皇恩の有難さに感泣するのみであります。

★妻子待つ我家へ★

昭和十四年六月末、退院を許されて、再び相見ざる苦の家庭に父として、夫として歸ることを得たのであつた。子等はすく／＼と育つてゐた。帝都の北隅の裏街の一室に夫の身を案じながら四人の子供を抱へ、夜は二時、三時頃まで手内職をしてその日を送つてゐる中に過勞のため失明状態となつてゐる、と語る妻は不眠の色を見せず、私の歸りを心から喜んでくれた。

私は妻の勞苦に感謝の涙を光らせながら

「もう心配するな」

と力強くいつたものの骨髄の骨折と右手関節の骨折の身では妻子を養ひ得る自信はなかつた。出征前の長具師としての働きもできず、あれこれと思ひまよつてゐる時、ト思ひついたのが東京第一陸軍病院庶務課の永坂少尉殿であつた。私が入院中いろいろお世話になつた少尉殿だ。

私は少尉殿にお目にかゝつて、家庭の情況や就職について委しくお話をした。少尉殿は快く就職のことを引受けて下さつた。

数日の後、私は日本鐵工〇〇會社の管理係として通勤をしてゐた。七十二圓の初給は私共家族の飢饉を救ふことに掛けた。

「そこに掛けたか」

と腰を下ろした。私が書のことをお願ひすると閣下は微笑のまゝ、黙つて聞いてをられたが

「何處で傷ついた」

「廣東であります」

私は會社で働いてゐる内、湯水した失敗の顛末を申し上げると

「何んだ」

とたゞ一言仰つて、そして長い沈黙が続いた。やがて微笑を浮かべられた閣下は

「榮幸について何か言ひたいことは話さなければならぬ。閣下は兵の心を心配してをられるのだ。國家のこの施設に對して何の不平があらう」

「何にもありません」

「是れは送つてやるから早く歸つて仕事にお戻りなさい。汽車の中で幾分か冷静を取り戻した私は閣下の『何んだ』の一言の意味について考へてみた。さうださうださうだの心はゆるんでゐたのだと悟ると、疲勞と汗で薄汚くゆがんだ頬に悔いの涙がとめ度もなく流れる。再起の實を結んで再び閣下に御目にかかれた時、立派に再起した自分の姿を見ていたゞくのだと決心すると同時に胸が軽くなるのを感ぜえた。

★苦難の生活始まる★

三日の後、本庄閣下から小包が届けられた。賑々としてしかも剛毅そのもののやうな閣下の筆跡はと頼むのであつた。

翌日から伊藤君は製造に妻と共に働いてくれた。二人が二人になつた。十割の力を得たのだ。私は得意先の擲筆に夢中することが出来た。働いて働いて働いて。ところが今度は紙が足りない。小賣店では到底必要な紙が買えない。

「よし、問屋から分けて買はう」と思つて一軒々々の紙問屋を探しては頼んで見たが、買積のない紙問屋の私に紙を賣つて呉れるはずはない。だがこれは當然なことだ。すでに經濟難に入つてゐるのだから、元來、頼む方が無理なのであつた。紙が買へなかつたら十数軒の得意先まで来た時、岩戸洋紙店の老舗が目についた。また断られるかと思ひながら主人に會ひ、今迄の顛末を話した。苦衷を訴へた。黙つて聞いてをられた御主人は私の話を聞き終ると「分りました。みなさんの御苦勞もよく分ります。實は私も日曜毎に店の者と遠く病院まで問屋に何つてゐます。傷痍軍人の方のことでしたら出来る限り紙は續けて上げます。御の方は餘分ありませんから店の小賣の分を御禮で差上げます」

と意外な言葉に私はむしろおどろいた。しかも實績のない印刷業を営む同じ職友にも用紙を供給してゐられることを聞き、私はこの義侠心にすつかり感激してしまつた。漸く仕事は軌道に乗つてきた。

★再起今や全く成る★

明けて昭和十六年三月、尾久町に店舗を借り受け『再起報國型紙發賣元』の看板を掲げた。附近に小工場も設けた。吉川正夫君（胸部貫

★有難い救ひの手★

八月末日となつた。私の病氣もいくらか快方に向いてきた。仕事もこゝまで結つたのだ。もう一息だ。歩行も出来るやうになつたので、軍役所の軍人援護課に行つて委託を請はうと、また係の親切なご指導を賜はつた。軍人援護課から資金を借り受けられる手續を済まして貰つた。翌日、當地の在軍軍人分會長と軍人援護會に赴き、金四百圓も一ヶ月据置き五ヶ年間の割賦返済を條件として借り受けることが出来た。嗚呼、天未だ我を見捨て給はず、ひたすら皇恩の有難さに感涙に咽ぶのであつた。

資金は出来た。勇氣百倍、外交に必要なボスター、見本、とも角も一通りの準備は出来上つた。

十二月一日、それは興亞奉公日であつた。北風はや、寒く雨降樹を吹き掃つてゐたが、空は藍色に澄んでゐた。遙かに宮城を拜し、胸中に燃れた情國の英魂に默禱を捧げた後、初めての外交戦に飛出した。行く當てもない。然し今日は乾度注意をよる。今日とればならぬ。國家の生業資金はどうかして返済する。成る、成らぬが私の一生を支配する岐路に立つたのである。

生地店が見當つた。氾濫した生地の間そこにこの主人が立働いて

★再起今や全く成る★

お願ひすると閣下は微笑のまゝ、黙つて聞いてをられたが

「何處で傷ついた」

「廣東であります」

私は會社で働いてゐる内、湯水した失敗の顛末を申し上げると

「何んだ」

とたゞ一言仰つて、そして長い沈黙が続いた。やがて微笑を浮かべられた閣下は

「榮幸について何か言ひたいことは話さなければならぬ。閣下は兵の心を心配してをられるのだ。國家のこの施設に對して何の不平があらう」

「何にもありません」

「是れは送つてやるから早く歸つて仕事にお戻りなさい。汽車の中で幾分か冷静を取り戻した私は閣下の『何んだ』の一言の意味について考へてみた。さうださうださうだの心はゆるんでゐたのだと悟ると、疲勞と汗で薄汚くゆがんだ頬に悔いの涙がとめ度もなく流れる。再起の實を結んで再び閣下に御目にかかれた時、立派に再起した自分の姿を見ていたゞくのだと決心すると同時に胸が軽くなるのを感ぜえた。

★苦難の生活始まる★

三日の後、本庄閣下から小包が届けられた。賑々としてしかも剛毅そのもののやうな閣下の筆跡はと頼むのであつた。

翌日から伊藤君は製造に妻と共に働いてくれた。二人が二人になつた。十割の力を得たのだ。私は得意先の擲筆に夢中することが出来た。働いて働いて働いて。ところが今度は紙が足りない。小賣店では到底必要な紙が買えない。

「よし、問屋から分けて買はう」と思つて一軒々々の紙問屋を探しては頼んで見たが、買積のない紙問屋の私に紙を賣つて呉れるはずはない。だがこれは當然なことだ。すでに經濟難に入つてゐるのだから、元來、頼む方が無理なのであつた。紙が買へなかつたら十数軒の得意先まで来た時、岩戸洋紙店の老舗が目についた。また断られるかと思ひながら主人に會ひ、今迄の顛末を話した。苦衷を訴へた。黙つて聞いてをられた御主人は私の話を聞き終ると「分りました。みなさんの御苦勞もよく分ります。實は私も日曜毎に店の者と遠く病院まで問屋に何つてゐます。傷痍軍人の方のことでしたら出来る限り紙は續けて上げます。御の方は餘分ありませんから店の小賣の分を御禮で差上げます」

と意外な言葉に私はむしろおどろいた。しかも實績のない印刷業を営む同じ職友にも用紙を供給してゐられることを聞き、私はこの義侠心にすつかり感激してしまつた。漸く仕事は軌道に乗つてきた。

★再起今や全く成る★

明けて昭和十六年三月、尾久町に店舗を借り受け『再起報國型紙發賣元』の看板を掲げた。附近に小工場も設けた。吉川正夫君（胸部貫

「報軍心」の文字に充ち溢れてゐたその後、問もなく診察の結果、漸く歸宅を許された。再び歸る我が家、そこに待つのは妻と子供達との生活であつた。今度こそと、心に鞭打ちながら就職に奔走した。指導所の軍人部でも各所に照會の勞を煩はした。しかしまた右手の自由が完全でなく、このため適當の就職は出来ず今日も明日はと日一日と過ぎて行く。歸るに足らぬと感得が元で帰してしまつた。子供と病妻を抱へ、生活は極度に詰つてくる。僅かの家財も一品、二品と消費してゆく。どうかして良い醫者に見せてやりたい。恥を忍んで區役所に向向いたところ、厚生課の係員の親切な世話で女子醫專附屬病院に入院させる事が出来、本當に助かつたと思つた。

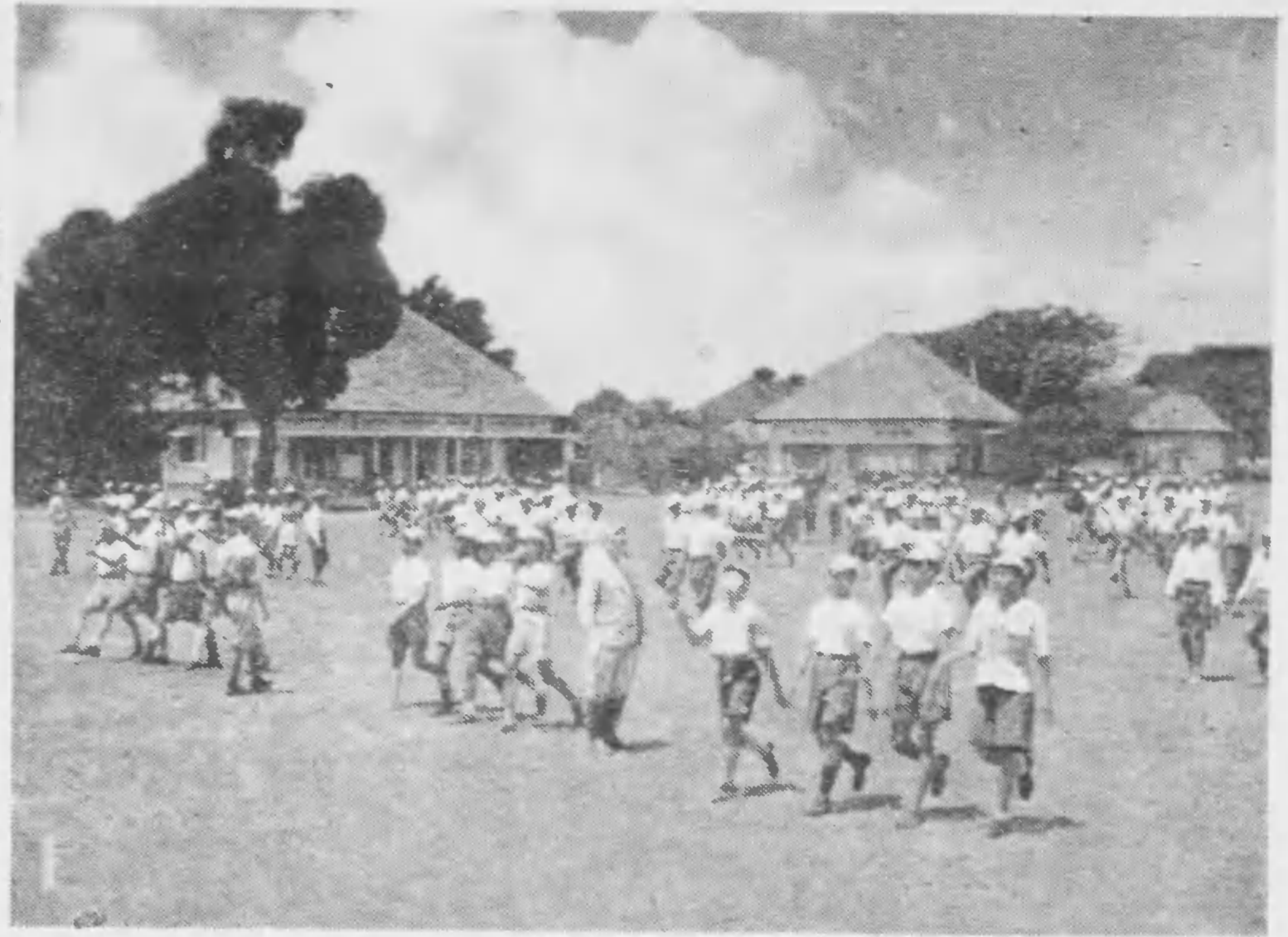
この妻の發病等、空しく三ヶ月の日は流れてしまつた。どうかして自分の力で出来る仕事は無いのかと、夜も晝も、そして寝る間にも何か副業をしようと思へた。さうだ、現役中に縫工を、陸軍病院入院中に洋裁を習得した経験を基礎にして洋裁をしようと思つた。しかしミシンを買ふ金はない。ミシンどころか糸を買ふ金もない。また愛器になつた。洋裁を習つてゐた時の方が頭に浮ぶ。軽快なミシンの音、裁断、型紙、型紙、型紙、さうだ型紙だ、獨立した一枚の型紙、これを作つたらどんなに便利だらう。洋裁の一番困難なのは型紙を作るのだ。その型紙を考案して市場に出したらどんな反響を呼ぶだらう。早速、研究に着手した。まづ婦人子供服數通も新たに參加、外交に、擴張に努力された。得意先は増加の一方となつた。土曜も日曜もない。夜十一時、十二時迄も仕事をした。再び訪れた夏には最早や不安も焦燥もなかつた。既に援護會には金四百圓也を返還出来、私の職志として五十圓の寄附をさせて戴いた。

八月八日には軍人援護會本部御堀海軍少將閣下、軍事保護院、東京府から各關係の方々が生業狀況視察に臨み、來訪せられ、激動のお言葉と共に金一封を賜はり、ついで、十月には銚後奉公會長東京市長大久保留次郎殿から職狀奉公を賞せられ表彰状を授與せられた。再々光榮に感泣の外なかつた。得意先は北は青森、西は九州にまで延びた。思へば永い苦難の道であつた。然し未だ事業は緒に付いたばかりだ。本庄閣下の無言の教訓がなかつたら、援護會の生業資金と岩戸洋紙店主の義侠がなかつたら、私にいくら開闢があつても仕事は中絶、徒らに世の同情を乞ふのみとなつたであらう。

親愛なる全國の傷痍軍人職友諸君よ、諸君と同じ我等の友は今後ますます増加するのであらう。このことを思ふ時『自分は只今かぎり傷痍軍人ではない』といふ氣持で、後から来る職友が一人でも多く立派に再起奉公のできるよう、彼等先導する炬火とならうではありませんか。

(岩戸洋紙店老舗長 元島 貞吉)

新生ワジの手で



一週間に二回軍隊教練が行はれる。すつかり日本語の読令を覚えてしまった生徒たちの、きびしくした動作が心強い。

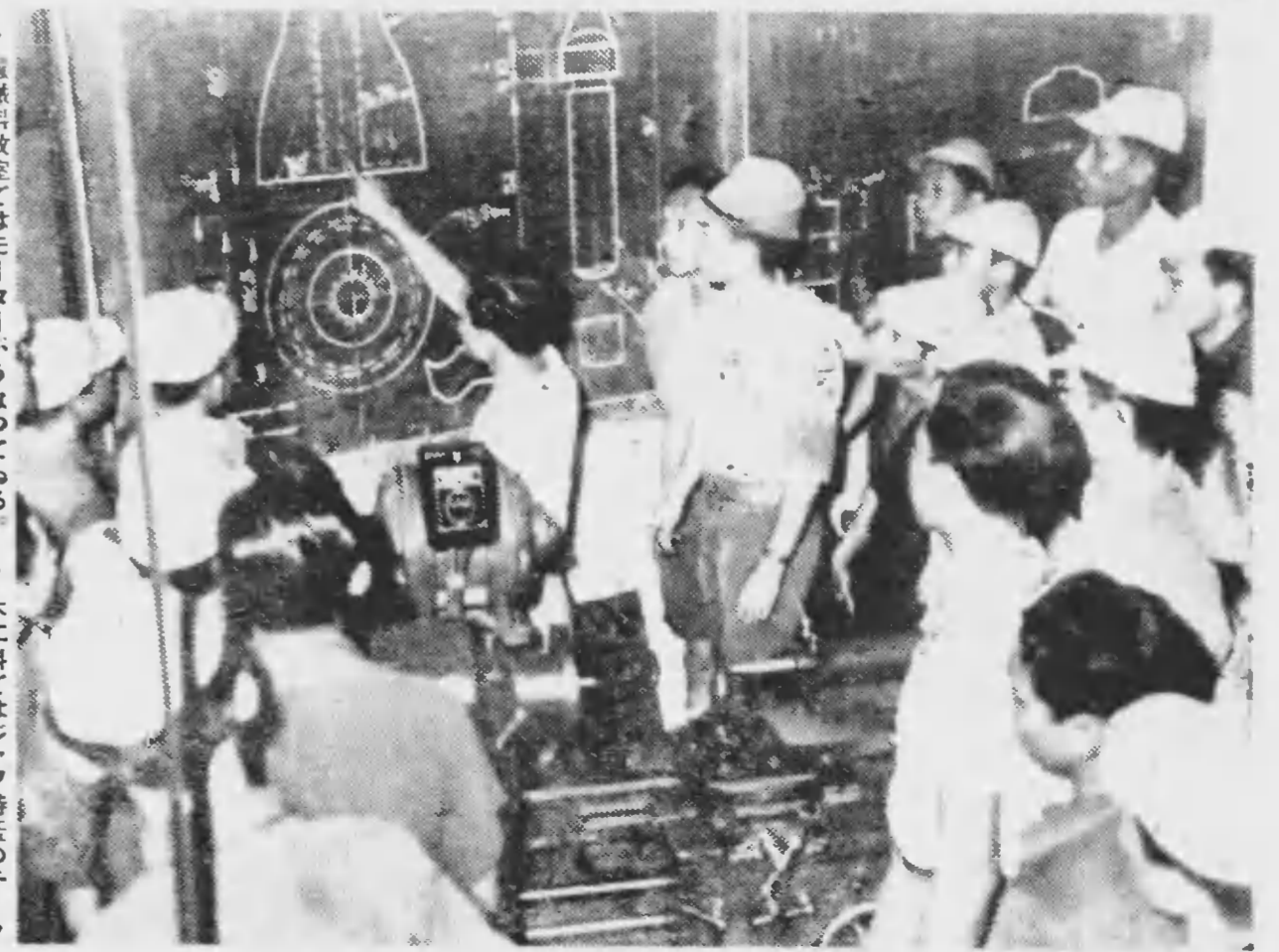
ジャワといへば、昔は、われわれには南の島だ。だが、今では本気で近い気がする。ジャワが皇恩に浴するやうになつてから、はや半年、僅かな年月ではあるがオランダの悪政時代とは全くその面目を一新してしまつた。いたるところ噴煙噴き立てる建設熱を奏でてゐる新生ジャワの頼もしい躍進ぶりを二、三紹介しよう。

その一……現地住民から若き技術家を擧げよう。と、軍政部教育局の財源で去る八月一日、ボタウィアに技術員養成所が再開された。現在、二百七十餘名の生徒だが、理論に、實際に、無類な勉強を続けているが、その張り切り方は大變なもので、六ヶ月の養成期間に一人前になると、これまで師匠者は一人も居ない有様である。

その二……このほど島外各地で有名なマツンの郵便ポストに、〇〇郵便管理の二白給開閉が開始された。島外に〇〇郵便局を開設するに、先づ郵便局を申し出た。島外から集まる住民は先づ國旗掲揚機、次に開閉機、種々な、森本の手入れなど、災厄に負けず懸命な作業を始めるが、その福は、皇軍に協力するが如く一律だ。

その三……郵便建設工作も進捗し、砂眼、ゴム、コーヒー等、またその他の生活必需品の生産は日を追つてます。盛んとなつてゐる何れも、煙草工場を訪れて見ると、多数の乙女たちが希望に胸をふくらまして生産にいそしんでゐるが、その噴々として立脚く姿に、起るるジャワの頼もしい生産力が窺はれよう。

いそくと開閉に従事する現地住民



機械科教室ではモーターがうなつてゐる。機軸の操作や裏面の説明に先生は汗だく。木工科ではジャワ特産のチーク材を材料に、工作に一生懸命。



操業開始した煙草工場に働くジャワ乙女





マレリの俘虜 五

陸軍上等兵 竹森 一男 作

俘虜は、捕虜所の傍の空地に麻袋を敷いて、その上に腰を下ろした。フィリップは腰を下ろすと衣袋から汚れた手巾を取り出して顔の汗を拭いた。そしてその手巾を無難に折りたたんで懐にしまった。彼はそれを愛するに似て手を握り、まじりと日本兵の姿を無気力な、僅かに好奇心のうごめいた顔で見つめ、キが足に視線を落して、そつと左手で血の染んだ繻帯の上を觸つた。隣りに足を投げ出してゐたヘンリーは戦友の視線を追つたが、興味なささうに天を仰いだ。もう夜はすっかり明け、白く澄められた空には雲が静かに縋引いてゐた。鶏の聲がしきりに椰子に南された部落から起つた。薄霧色の一閃が椰子の葉を透してみざり、水上にたゆたふ淡い乳色の霧が散つて、爽快な朝が次第に匂つて来た。

ヘンリーは、日本の兵隊がそろつて、衣袋から巻煙草を取り出し、皆さうに煙草を吐き出す様子を楽しみさうに見たが、慌てて視線をそらした。鎌田は「ほまれ」を一本取り出して微笑を含みながら彼に與へた。ヘンリーは愕然として「サンキュー、サンキュー」と云つて、早速口には煙草をくわへた。他の二人の眼が輝いた。鎌田は他を無視することが出来なかつたので、立上つて、一人々々に分け與へた。ヘンリーはそこに仰向けに寝転ぶと、湯々とした空を胸にばい呼吸し、頬を凹ませ深々と嘆息した。

捕虜は負傷兵に沃度丁幾の小端を與へて、フィリップに治療を促した。負傷兵は繻帯を解いた。彼は足首に擦過、鎌田を負つてゐるにすぎなかつた。満口は、俘虜を監視してゐる戦友の態度の優しさに感動した。戦争は残酷な事である。彼等がどのやうな苦痛を受けやうとも、それは軍の偉大な法則によつて施行せられるのである。その法則と運命の峻厳さの間にあつて、人間の温い心を證據立てるものは、日本兵士の敵國俘虜に對する態度に外ならない。大國民の裡度を表明することである。彼等を用ひの底から温い心で觸れしめる餘裕を持たなければならぬ。敵に尊敬される位の日本人でなければ、今後世界に君臨できぬだらう。

「ユウア、ネエム。」と吉村は一番年若さうな金髪で體格の兵隊に訊ねた。池原が英語を使つたので、みんなげろくと笑つた。そして「インド兵のこれからの仕事はインド獨立ですよ、なか／＼大へんだ」と笑つた。

「カーシ」と彼はきつぱり答へた。「ダーシ、ダーシ、ミスカー、ダーシ君か。きかぬ名前だな」と吉村は笑ひながら云つた。「アラ、ウモル、アンカウ、君の歳はいくつか」と吉村は突如にマレリに訊ねた。「エー、エー、エー」と捕虜が怪訝さうなダシに答へた。「二十歳」と彼は一本の指を差し出して答へた。

「椰子の木陰で、英人俘虜と話をすると、思はなかつたよ」と池原が肩をゆすりながら感嘆深さうに一同を眺め廻した。その時、山室機關の春咲少尉が自動車で来た。俘虜の服装點檢が始まつた。一同は急に、両手をあげて従順に身を委せる俘虜の姿を、毅然とした態度になつて、點檢し始めた。その假借なきまでに儼然とした取調は、優しい兵隊とはかり思ひつめてゐた俘虜の顔色を瞬間裏返しにさせた。満口と鎌田は一つの麻袋に収めておいた私物品を點檢した。傷いた兵隊の手帳から若い金髪の女の寫眞が出て来た。鎌田は知らぬ顔して事務的にそれを手帳に挿んだ。葉夾のやうな細長い容器にはいつたホマードと桃色のケースにはいつた緑色の楯が出た。

「こんなもの持つて戦争してゐるから弱いんだ」と鎌田はたゞきつけるやうに麻袋に投げ込んだ。

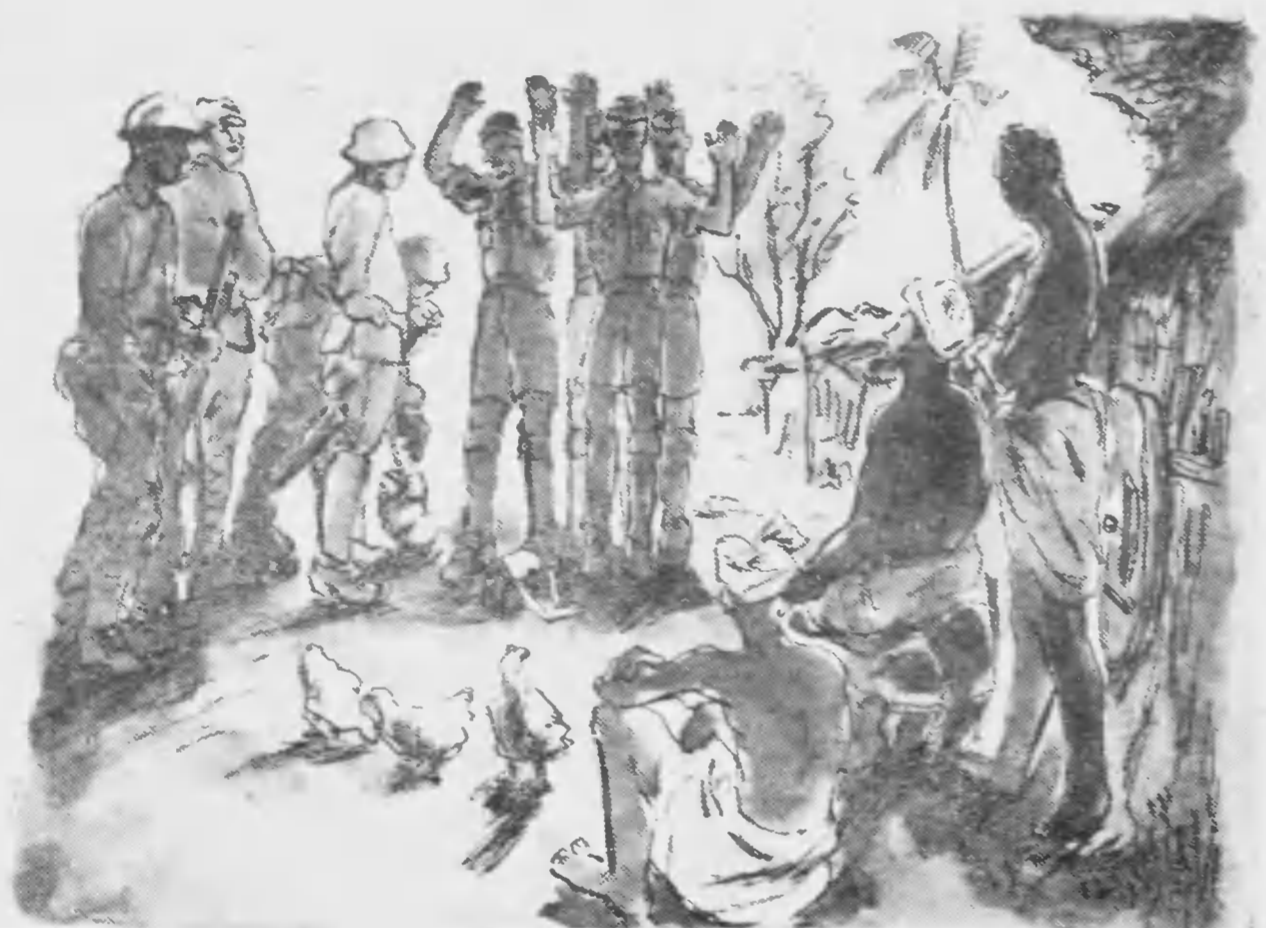
「彼等の生活の一切は終つたのだ」と満口は心の底で思つた。――點檢は終つた。

一同が自動車の上に乗せられ、俘虜を擁して乗り込んだとき、太陽はすっかり昇つて、あたりは、朝の光に洗はれ、緑の熱帯植物はにかすつかり吹き飛んでゐた。

満口は、この二十四時間中に、自分が大きな成長を遂げたことを感じた。それは運命がさうさせたやうにも思へたが、創造的な苦痛と忍耐が、その直前に、試験の手になつて伸ばされてゐたことを認めざるを得なかつた。

俘虜を乗せた自動車は、車は馥郁とパイアの匂ふ舗道を疾走してゐた。道端の椰子葺きの小屋には必ず日の丸の小さい國旗が掲げられてゐた。日本語學校に通ふ子供達が、手を振つて「有難う」と叫んで、そして愛國行進曲を合唱しながら遠ざかつていつた。牛や山羊が怒々と自動車中を避けた。彼も、馬も、鳩も、標がれさうになるまで飛んだなかつた。

(をほり)



「しかし、僕は、英軍の俘虜になり損ねて、着くやつたから、満口は嘗てない自然な笑顔をみせた。みんなから／＼と笑つた。今度以上の捕虜にきてゐた、もや／＼したもの、いつのまにかすつかり吹き飛んでゐた。

「二十歳」と彼は一本の指を差し出して答へた。

「椰子の木陰で、英人俘虜と話をすると、思はなかつたよ」と池原が肩をゆすりながら感嘆深さうに一同を眺め廻した。その時、山室機關の春咲少尉が自動車で来た。俘虜の服装點檢が始まつた。一同は急に、両手をあげて従順に身を委せる俘虜の姿を、毅然とした態度になつて、點檢し始めた。その假借なきまでに儼然とした取調は、優しい兵隊とはかり思ひつめてゐた俘虜の顔色を瞬間裏返しにさせた。満口と鎌田は一つの麻袋に収めておいた私物品を點檢した。傷いた兵隊の手帳から若い金髪の女の寫眞が出て来た。鎌田は知らぬ顔して事務的にそれを手帳に挿んだ。葉夾のやうな細長い容器にはいつたホマードと桃色のケースにはいつた緑色の楯が出た。

「こんなもの持つて戦争してゐるから弱いんだ」と鎌田はたゞきつけるやうに麻袋に投げ込んだ。

「彼等の生活の一切は終つたのだ」と満口は心の底で思つた。――點檢は終つた。

一同が自動車の上に乗せられ、俘虜を擁して乗り込んだとき、太陽はすっかり昇つて、あたりは、朝の光に洗はれ、緑の熱帯植物はにかすつかり吹き飛んでゐた。

満口は、この二十四時間中に、自分が大きな成長を遂げたことを感じた。それは運命がさうさせたやうにも思へたが、創造的な苦痛と忍耐が、その直前に、試験の手になつて伸ばされてゐたことを認めざるを得なかつた。

俘虜を乗せた自動車は、車は馥郁とパイアの匂ふ舗道を疾走してゐた。道端の椰子葺きの小屋には必ず日の丸の小さい國旗が掲げられてゐた。日本語學校に通ふ子供達が、手を振つて「有難う」と叫んで、そして愛國行進曲を合唱しながら遠ざかつていつた。牛や山羊が怒々と自動車中を避けた。彼も、馬も、鳩も、標がれさうになるまで飛んだなかつた。

(をほり)

十月の常会

軍人援護に努めよう

十月三日から八日までの六日間、全國一齊に「軍人援護強化運動」が展開され、支那事變以來、大東亞戦争の今日までのあの大きな戦果の陰には幾百万の兵士とその遺家族の方の大變な勞苦のあつたことを思はねばなりません。

この勞苦によつて、もつた大戦果にこたへ、軍人援護に關する勸諭の聖旨を奉戴して一億國民の感激と感謝をこめて、次ぎのことがらを必ず實行して軍人援護を徹底的に強化させよう。

一 常會席上、必ず「銃後奉公の誓」を朗誦させよう。

二 戦後軍人、出征軍人、傷病軍人の家庭を訪ね真心の慰問を致しませう。

三 出征軍人には慰問文、慰問袋を發送しませう。慰問文にはできるだけ留守家族の動靜、隣組の近況を、慰問袋には手製の手袋、品等工夫をこらして下さい。

家庭から鐵と銅を出さう

十月から明年二月末日にかけて鐵と銅の一般家庭特別回収が全国的に展開されます。大東亞戦争を勝利するための戦力増強と、急を要する船舶の充實のために鐵と銅を確保することが絶対必要なることは皆さんすでに存知の筈です。今度こそど

俘虜は、捕虜所の傍の空地に麻袋を敷いて、その上に腰を下ろした。フィリップは腰を下ろすと衣袋から汚れた手巾を取り出して顔の汗を拭いた。そしてその手巾を無難に折りたたんで懐にしまった。彼はそれを愛するに似て手を握り、まじりと日本兵の姿を無気力な、僅かに好奇心のうごめいた顔で見つめ、キが足に視線を落して、そつと左手で血の染んだ繻帯の上を觸つた。隣りに足を投げ出してゐたヘンリーは戦友の視線を追つたが、興味なささうに天を仰いだ。もう夜はすっかり明け、白く澄められた空には雲が静かに縋引いてゐた。鶏の聲がしきりに椰子に南された部落から起つた。薄霧色の一閃が椰子の葉を透してみざり、水上にたゆたふ淡い乳色の霧が散つて、爽快な朝が次第に匂つて来た。

ヘンリーは、日本の兵隊がそろつて、衣袋から巻煙草を取り出し、皆さうに煙草を吐き出す様子を楽しみさうに見たが、慌てて視線をそらした。鎌田は「ほまれ」を一本取り出して微笑を含みながら彼に與へた。ヘンリーは愕然として「サンキュー、サンキュー」と云つて、早速口には煙草をくわへた。他の二人の眼が輝いた。鎌田は他を無視することが出来なかつたので、立上つて、一人々々に分け與へた。ヘンリーはそこに仰向けに寝転ぶと、湯々とした空を胸にばい呼吸し、頬を凹ませ深々と嘆息した。

捕虜は負傷兵に沃度丁幾の小端を與へて、フィリップに治療を促した。負傷兵は繻帯を解いた。彼は足首に擦過、鎌田を負つてゐるにすぎなかつた。満口は、俘虜を監視してゐる戦友の態度の優しさに感動した。戦争は残酷な事である。彼等がどのやうな苦痛を受けやうとも、それは軍の偉大な法則によつて施行せられるのである。その法則と運命の峻厳さの間にあつて、人間の温い心を證據立てるものは、日本兵士の敵國俘虜に對する態度に外ならない。大國民の裡度を表明することである。彼等を用ひの底から温い心で觸れしめる餘裕を持たなければならぬ。敵に尊敬される位の日本人でなければ、今後世界に君臨できぬだらう。

「ユウア、ネエム。」と吉村は一番年若さうな金髪で體格の兵隊に訊ねた。池原が英語を使つたので、みんなげろくと笑つた。そして「インド兵のこれからの仕事はインド獨立ですよ、なか／＼大へんだ」と笑つた。

「カーシ」と彼はきつぱり答へた。「ダーシ、ダーシ、ミスカー、ダーシ君か。きかぬ名前だな」と吉村は笑ひながら云つた。「アラ、ウモル、アンカウ、君の歳はいくつか」と吉村は突如にマレリに訊ねた。「エー、エー、エー」と捕虜が怪訝さうなダシに答へた。「二十歳」と彼は一本の指を差し出して答へた。

「椰子の木陰で、英人俘虜と話をすると、思はなかつたよ」と池原が肩をゆすりながら感嘆深さうに一同を眺め廻した。その時、山室機關の春咲少尉が自動車で来た。俘虜の服装點檢が始まつた。一同は急に、両手をあげて従順に身を委せる俘虜の姿を、毅然とした態度になつて、點檢し始めた。その假借なきまでに儼然とした取調は、優しい兵隊とはかり思ひつめてゐた俘虜の顔色を瞬間裏返しにさせた。満口と鎌田は一つの麻袋に収めておいた私物品を點檢した。傷いた兵隊の手帳から若い金髪の女の寫眞が出て来た。鎌田は知らぬ顔して事務的にそれを手帳に挿んだ。葉夾のやうな細長い容器にはいつたホマードと桃色のケースにはいつた緑色の楯が出た。

「こんなもの持つて戦争してゐるから弱いんだ」と鎌田はたゞきつけるやうに麻袋に投げ込んだ。

「彼等の生活の一切は終つたのだ」と満口は心の底で思つた。――點檢は終つた。

一同が自動車の上に乗せられ、俘虜を擁して乗り込んだとき、太陽はすっかり昇つて、あたりは、朝の光に洗はれ、緑の熱帯植物はにかすつかり吹き飛んでゐた。

満口は、この二十四時間中に、自分が大きな成長を遂げたことを感じた。それは運命がさうさせたやうにも思へたが、創造的な苦痛と忍耐が、その直前に、試験の手になつて伸ばされてゐたことを認めざるを得なかつた。

俘虜を乗せた自動車は、車は馥郁とパイアの匂ふ舗道を疾走してゐた。道端の椰子葺きの小屋には必ず日の丸の小さい國旗が掲げられてゐた。日本語學校に通ふ子供達が、手を振つて「有難う」と叫んで、そして愛國行進曲を合唱しながら遠ざかつていつた。牛や山羊が怒々と自動車中を避けた。彼も、馬も、鳩も、標がれさうになるまで飛んだなかつた。

(をほり)



故國の香り

たゞの故國の香り、この間に、四十数戸の別荘が散在して、その各々に扇風機が代りに風を吹かせる。マレーには、昔の南洋の別荘地である。ここにマレーの故國の香りを感じることが出来る。

舟艇移乗

影は影を生み、影は影のたしかさを信じ、蜘蛛のやうに巧みにいさゝか、のあふたげもなく、舟艇へ乗り移つて行つた。俺はそれら肉體の響きのなか

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亞劇場に炎の如き熱意をもち、我々を心ゆくまで燃やしてくれた仲間を見て、私は感涙をこぼした。私は彼等今次の冒険行を直に彼等全員の死を賭しての熱誠を公認することを知つてゐる。千古に輝くこのマレーの歴史に、俺等が、人柱となつた戦友の無言の凱旋に哀別の任務を終つての歸國、俺等も私は、この熱い感情に接する機会を得た。

マレーの妙義山に 傷病勇士療養所
マレー半島における、最大の避暑地として知られてゐるフレゼザ・ヒルが、軍政部、バハ州の協同で傷病勇士たちの療養所に當てられることになつた。フレゼザ・ヒルはアラ・ルンブルの北方約九十キロで、バハ及びセランゴール州地に跨り、海抜四千五百フィートに達する岩石重層たる山で、頂上まで自動車を走らせ、カメロン高原を越す際、これと、フレゼザ・ヒルは内陸の妙義山に似た景勝の地である。

マレー半島における、最大の避暑地として知られてゐるフレゼザ・ヒルが、軍政部、バハ州の協同で傷病勇士たちの療養所に當てられることになつた。フレゼザ・ヒルはアラ・ルンブルの北方約九十キロで、バハ及びセランゴール州地に跨り、海抜四千五百フィートに達する岩石重層たる山で、頂上まで自動車を走らせ、カメロン高原を越す際、これと、フレゼザ・ヒルは内陸の妙義山に似た景勝の地である。

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亞劇場に炎の如き熱意をもち、我々を心ゆくまで燃やしてくれた仲間を見て、私は感涙をこぼした。私は彼等今次の冒険行を直に彼等全員の死を賭しての熱誠を公認することを知つてゐる。千古に輝くこのマレーの歴史に、俺等が、人柱となつた戦友の無言の凱旋に哀別の任務を終つての歸國、俺等も私は、この熱い感情に接する機会を得た。

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亞劇場に炎の如き熱意をもち、我々を心ゆくまで燃やしてくれた仲間を見て、私は感涙をこぼした。私は彼等今次の冒険行を直に彼等全員の死を賭しての熱誠を公認することを知つてゐる。千古に輝くこのマレーの歴史に、俺等が、人柱となつた戦友の無言の凱旋に哀別の任務を終つての歸國、俺等も私は、この熱い感情に接する機会を得た。

木炭の増産と消費の節約に努めよう

今年の木炭生産目標は八億五千四百万貫ですが、七月迄の生産実績では同期間の豫定計画に對して七割の成績しか示してゐません。昨年は計画の八割七分までいつたので、今年はぜひとも目標まで達しなければなりません。これはまだ、餘程の努力がいるわけです。この際、木炭の生産出荷に當つてゐる方は食糧と同様に大事なものだといふことを考へ、さらに一段と奮起して下さい。一方、一般的消費者、特に大都市の方々はこの生産の現状と増産のために必死に働いてゐる人々の勞苦を考へ、今のうちから一つの木炭も粗末にせず、大切に使ふやうに心掛けませう。

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亞劇場に炎の如き熱意をもち、我々を心ゆくまで燃やしてくれた仲間を見て、私は感涙をこぼした。私は彼等今次の冒険行を直に彼等全員の死を賭しての熱誠を公認することを知つてゐる。千古に輝くこのマレーの歴史に、俺等が、人柱となつた戦友の無言の凱旋に哀別の任務を終つての歸國、俺等も私は、この熱い感情に接する機会を得た。



満洲國皇帝陛下 建國忠愛廟に 御親拜

建國十周年式典を明日に控へた九月十四日滿洲國皇帝陛下には、諸員を隨へさせられ、建國忠愛廟に御親拜に御製拜遊ばされた。

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

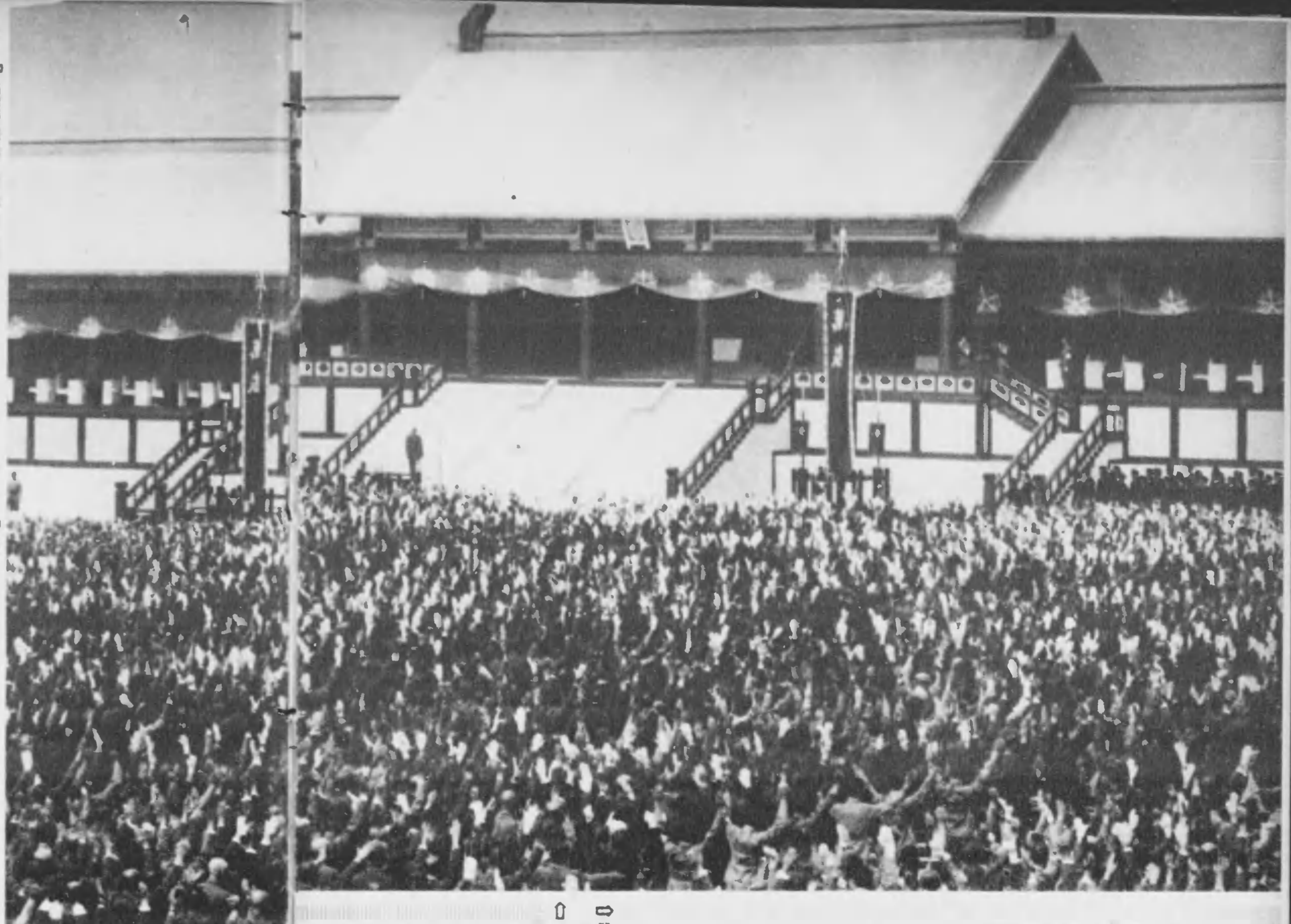
一日 大東亞省開設(豫定) 朝鮮總督府施政記念日
 三日 簡易保險記念日 第五回戦時郵便貯金切手賣出 八日 八日迄軍人援護強化運動
 八日 大講義日
 十一日 この日から鐵道省で二十四時間制を実施
 十四日 鐵道記念日 國に鐵道が開通して七十年 二十日 神皇正統記 神皇正統記大祭 鐵道殉職者慰霊祭
 十五日 神皇祭
 十七日 神皇祭
 廿三日 神皇正統記例祭
 卅日 教育勸励勸下場記念日



皇陛下御臨幸に際しての御礼



満洲國の繁栄を祈るに際しての御礼



皇陛下御臨幸に際しての御礼

満洲國建國新 十年周年式典 東京

次いで翌十六日、再び皇陛下の御臨幸を仰いで、滿洲國政府、協和會主催の祝賀會が式典会場と同じ南滿洲に於いて開かれたが、『建國十年』の喜びに沸きたる國都の歡喜と興奮は勿論、國運の基固めやうやく成つた慶祝に歡呼をあげる四千三百万蒼生の姿は、大東亞戦下一入意義深きものがあつた。

皇陛下御臨幸に際しての御礼



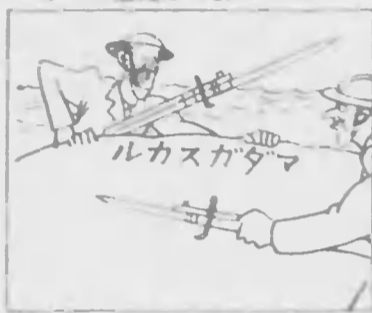


「兄さんの古帽子かぶせて、うちの下着させ
たげよ編みか頭にするものあれへんか」
 豊年ぢや、満作ぢやの登りの秋に猫の手も借りたい農家では案山子作りにもさぞかしお
 困りでせうと大阪市天下茶屋の女子青年團員は共同で廢品利用の案山子を製作、住吉區の
 農會に寄贈しました。雀のわるさに手を焼いてゐたお百姓さんたちは思ひがけない贈物に
 大よろこび、早速、みのりの波打つ稲田におし立てしましたが、附近のおしやべり雀もこれ
 にはすつかり驚いたやうです
 ◎いよ／＼駭然と歩哨に立つ案山子部隊は田圃の一角に整列した。これでは敵もひびくり／＼



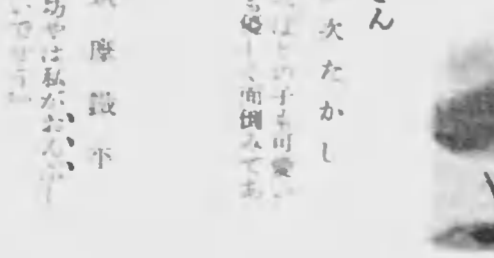
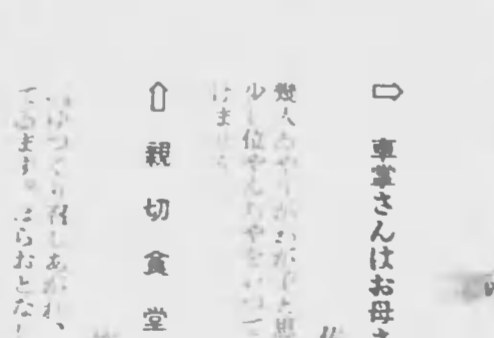
町か里、
救援案山子隊





報の製字初に州ココロ工本本

片手も無駄にはしません
白路 徹



白衣勇士隊間の打瀬網
名古屋市 後藤教一郎

療養生活のつれづれに慟む白衣の勇士を招待して一日爽快な打瀬網に興じて戴かうと、名古屋市鉄橋奉公会では下之色水産報國と共催で軍人投擲強化運動を間近かに控へた九月十一日、伊勢灣海上に白衣の勇士隊打瀬網漁を行ひましたか、この日夕刻までに大漁の山を築いた新鮮な海の獲物はトラックで同院軍病院の重症患者の食膳に贈られました

映民
記組隣

製作社映映本日 人法剛社

この映畫はさきごろ表彰された東京市の或る模範隣組のありのまゝの記録であつて、全巻を通じて美しくも楽しい隣組協同生活の姿が展開されてゐる。我々はこの映畫を見て、自分等の隣組をよりかへり、自分等の隣組をなほ一層よくするやうに心掛けて行かねばならぬ。



寫眞週報(禁載)

昭和十七年九月卅日印刷發行

★表紙
「こんな上等なお人形本當にもらつてもいいですか」
「いいわよ、をちさん、これはわたしがお母さんから買つた御褒美にお母さんになつた戯いたんだけど、をちさんが枕元に飾つて下さるならさつとも惜しくなんかないわ」
昨夜一晩脚んだ脚の傷も打ち忘れて深い鼓後の心づくしにわけもなく勇士は胸を衝かれる

臨時東京第一陸軍病院にて

所 達 申
書 店 寄 賣 店
新 聞 販 賣 店
寫 眞 材 料 店

價 定
一 部 十 錢 (送料 別)

代 理 店
内閣印刷局
東京市豊洲四丁目

復習室

本報からあなたは何を學んだ
てせうか?

- 1 軍人投擲を強化する常会の賞 三つは (15頁)
- 2 マレーの豪奢な海禁地フレノガールズの誕生は 公園? わが傷病勇士の療養所? 散楽境? 象の放牧場? (16頁)
- 3 私は軍人遺族の末人ですが 養育上となる職業指導所があるでせうか? (6頁)
- 4 わが國に鐵道が開通してから 何年になるでせう 三十年? 五十年? 七十年? (17頁)
- 5 マレー語講座 プラハ ウモ アンカウ (14頁)
- 6 十月から、また鐵道の一般家庭特別回車がはられますが、われわれが供出するものは、用品? 現用品? (16頁)
- 7 十月三日から八日まで全團一會に軍人〇〇〇〇が行はれます (4頁)
- 8 盟邦滿洲國の人口は 三千五百萬、四千萬、五千八百萬、八千万、(15頁)
- 9 平沼、有田、水井の三特派大使は、こんど何の目的で中國へ派遣されたのですか 大東亞省設置に關する連絡のため? 日華保衛條約締結のため? 汪主席、褚特派大使の派遣に對する答辭のため? (4頁)
- 10 十九時三十分の急行で一才京都まで、や、鐵道の二十四時間制は何日から、(17頁)
- 11 一週十點としてあなたは働いてしたか?

だんかゝんきって

一枚二円

才五回賣出 十月一日→十五日

抽籤日 十月二十日

割増金 一等千円以下多数

當籤率 十一枚に付一枚



抽籤の済んだ切手は五枚以上纏めて郵便局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。